



石川県遊技業協同組合 ならびに同県金沢支部 「医療用防護服およびオゾン紫 外線除菌機器の寄贈」事業



石川県遊技業協同組合
理事長
浅野哲洋さん

選考理由

今回の社会貢献大賞には、審査員全員の高い評価を得て、石川県遊技業協同組合ならびに同金沢支部が共同実施した「医療用防護服およびオゾン紫外線除菌機器の寄贈」事業が選抜された。時代の緊急のニーズに地元企業と連携して対応した本事業は、まさに時宜を得たものであり、知事から感謝状を贈呈されるほか、マスコミでも広く取り上げられた。政府の対応の遅れを民間の業界が補うという意味でも、その意義が大きい。また、県組合と同支部が合同で大賞を受賞するというのも今回初めてのケースである。この卓越した意義深い事業を企画・実施された関係者のご努力に心から敬意を表したい。

社会貢献活動審査委員会
委員長代行
野口 昇氏



新型コロナ治療の 最前線に立つ 医療従事者に感染予防の 防護服を寄贈

マスクや防護服が不足する緊急事態に 対処するために防護服寄贈を実施

一見、モノがあふれ、豊かに見える日本社会だが、大きな災害や事故などに見舞われたときにその脆弱性が露わになることがある。その一例が、2020年の年明けから日本を襲った新型コロナウイルスのパンデミックによって引き起こされた様々な騒動だといえる。それまでであることが当たり前で、よほどのことがない限り意識することもなかったマスクが、なんと国内に在庫がほとんどないことが判明した。

そこで、いわゆる「アベノマスク」が急きょ国民に配給されることになったのだが、ことはそれだけに留まるものではなかった。一般用のマスクよりもっと深刻だったのは、新型コロナ患者の診療や治療にあたる医療従事者用のマスクや防護服が欠乏するという事態だった。本来ならば使い捨てにしなければならないにもかかわらず、新しいモノがないということで、洗って再び使わざるを得ない状況にあるという報道が何度もなされた。

そうした事態に対し、日本各地で様々な団体、企業、個人などがマスクや医療用防護服などを自分たちで制作し、関係機関に贈るというニュースが幾度となく流れた。まさに市民レベルで共助の精神が発揮された例といえるが、そうした流れに倅さずものとして遊技業界のなかで注目されたのが、約70ホールを傘下に持つ石川県遊技業協同組合（以下、石遊協）による医療用防護服の寄贈事業だ。



県庁で行われた贈呈式では知事から感謝状が贈られた



救急車の車内や医療機関の待合室などで使用する
オゾン紫外線除菌機器を50台寄贈

石川県内の繊維販売会社と共同して オリジナルの医療用防護服を開発

石遊協では、2020年6月3日、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、医療従事者用の防護服5,000着と、救急車の車内や医療機関の待合室などで使用されるオゾン紫外線除菌機器50台を、石川県健康福祉部を通じて県内の医療機関に寄贈した。なお、このうち、防護服1,000着とオゾン紫外線除菌機器は、石遊協の活動に賛同した同組合金沢支部から贈られたものである。

防護服は石川県中能登町で繊維販売などを行う新日本テックスが自社製のポリエステル製自転車カバーの素材を使って開発したもので、煮沸消毒することで、再利用することもできる。製作段階で医療従事者の方々に試着してもらい、様々な意見を聞きながら、着脱のしやすさなどの改良を重ねたものだという。

寄贈当日は、石遊協の浅野哲洋理事長と新日本テックスの木村静夫社長らが県庁に谷本正憲知事を訪ね、目録を贈呈する形で実施されたが、浅野理事長は庁内で行われた報道関係者からのインタビューで、「今回の新型コロナウイルス感染で一番大変なのは、患者さんの手当てをしている医療従事者の方々。少しでもそうした方々の力になればいいと思い、寄贈を決めました」と説明した。また、谷本知事からは、「県の休業要請に組合所属のパチンコ店は応じていただいた。その節は大変なご苦勞をおかけしたが、ご協力いただき、改めてお礼申し上げたい」と、感謝の言葉が述べられた。

なお、寄贈の様子は当日のNHKやローカル局のニュースで放映されたほか、翌日の「北国新聞」などの地元紙にも記事が掲載された。